

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 7月 14日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691400032
法人名	株式会社 ケイシン
事業所名	グループホーム たるみず太陽の家
所在地	鹿児島県垂水市浜平2189-6 (電話) 0994-32-5030
自己評価作成日	平成27年5月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年6月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型グループホームを目指すと共に、自然と触れ合いながら質の高い介護サービスを提供し、要介護状態の軽減と悪化防止に、最善を尽くしています。
家庭的な雰囲気の中で日常生活を皆で支え、楽しく過ごして頂けるよう支援しています。
すぐ目の前の畑で入居者様と一緒に、花や野菜を作り、育ち具合や収穫の楽しみを味わい日々の食材として料理に使用しています。地域の方からも新鮮な野菜や果物の差し入れが多く旬の物を、おいしく頂いています。
季節ごとの行事では地域の踊りでの参加や見学者も多く、盛り上げて頂いています
認知症高齢者の方が自分らしく、気ままに ゆったりと生活できる様、地域医療、ご家族、職員が連携を取り、みんなで支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【理念の共有と実践】
・「入居者様の立場に立った介護」や「地域に根差した共同生活住居」、「地域交流を積極的に取り入れる」等の文言を含む理念のほか、事業所目標として「地域交流」を第一に掲げ、毎日朝礼で唱和することで意識付けを図り、職員全員で日々の支援につなげている。
【重度化や終末期に向けた支援】
・これまでに看取りの実践はないが、今後は利用者や家族の希望に対応できるよう重度化や看取りに関する勉強会や研修会に参加し、知識やレベルアップを図っている。
・夜間の往診や職員や家族に対して医師から直接説明を受けることが可能であるなど、24時間医療連携が図れていることから安心して生活できる環境にある。
【災害対策】
・当事業所は地域の緊急時の避難場所として提供しており、災害訓練も公民館や地域住民らと合同で開催し、地域との連携が図られている。
・備蓄については、米や飲料水、レトルト食品等が十分な量確保されており、ラジオや懐中電灯、おむつや毛布などの備品も十分確保されている。これらの備蓄や備品は、持ち運びやすいよう玄関にまとめられ保管されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念の唱和を行い理念に沿った地域密着型サービスの実践に取り組み地域との交流が深まっている。	入居者の人権の尊重と地域交流を主体とした理念と目標を毎朝の朝礼で唱和することで理念の意識付けを図っている。また、毎月のお便りにも事業所理念を明記しており、家族や地域住民にも事業所の思いや役割、取り組みについて理解をしてもらうよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とのつながりが保てるよう奉仕作業や催し物に積極的に参加している。	年間目標として「地域交流の促進」を掲げ、保育園や小学校との交流や地域住民にも声をかけ敬老会やグランドゴルフ大会を開催するなど積極的に交流している。また、日常的に買い物や散歩に出かけたり、地域の方々と挨拶や会話を交わしたり、野菜や果物のお裾分けを頂く機会も多い。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	夏祭りや、クリスマス会等に地域の参加を呼び掛けたり地域とのグランドゴルフ大会を小学校で行い認知症の方の理解も得られている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームでの取り組み状況、サービス内容報告を行い、そこでの意見や提案をサービス向上に活かしている。	会議には家族や行政職員、公民館長、系列事業所の本部職員らが参加しており、事業所の取り組みや入居者の状態報告、事業所の改善点等について積極的に意見交換している。事業所周辺への外灯の設置について意見が出され対応したことや、多くの方に会議に参加してもらえるよう事業所の行事に併せて開催するなど工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市役所の担当者との連絡を密にとり報告や相談等、市役所に出向き助言を頂いている。事業所の行事にも参加して頂き協力関係を築いている。	年4回程度、行政主催のケアマネージャー研修会が開催されるほか、「三木会」と呼ばれる多職種連携による勉強会に毎月参加するなど行政職員と話しをする機会が多い。また、運営推進会議や介護認定の更新、相談等、市役所を訪問し意見交換する機会も多く日常的に連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置し毎月確認している。研修会への参加、勉強会を行い職員全員が身体拘束の具体的な行為を正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束しないケアについて重要事項説明書に記載するとともに2ヶ月に一度、身体拘束廃止委員会で、身体拘束が行われていないか確認し合っている。また、年1回程度外部研修会にも参加し、事業所に持ち帰り内部研修につなげることで、職員全員が学び、振り返る機会としている。職員同士、言葉による拘束についても声かけ、注意し合うなど、拘束について真剣に考え、拘束をしないケアの実現に向けて努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の勉強会を行い身体的、精神的虐待の防止に努めている。排泄介助、入浴介助時など確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現時点での活用はないが研修会に参加し資料を基に勉強会を行い、権利擁護、成年後見人の制度を学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には重要事項説明書や契約書をもとに十分な説明を行い、不安や疑問点を伺い理解、納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日々の生活の中や家族の面会時に、管理者や職員に意見が言いやすい関係性作りを行い、年2回の家族会ではアンケートを実施し運営に反映している。</p>	<p>利用者の好みや嫌なことを本人や家族から聞き取ったり、日々接する中で思いの理解に努めている。年2回の家族会ではアンケートを取り意見の把握に努めるとともに日頃から訪問時や電話で密に連絡を取っている。また、些細なヒヤリハットでも必ず家族に連絡し状況と対応について説明することで家族の安心感と信頼関係の構築に努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>代表者、管理者は日頃から職員の意見や提案を聞き運営に反映している。職員の気づきや意見提案は申し送りの中で話し合い共有している。</p>	<p>日頃から職員の意見を聞く機会が多く、毎月のミーティングや年2回の個別面接時にはアンケートを取るなど個々の職員の意見を大切に聞き取り把握するよう努めている。また、聞き取った意見については、ミーティング時に議題に上げるなど職員の意見が運営に反映させられるよう職員全員で話し合い改善に向け取り組んでいる。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は管理者会議やミーティングで職員の努力や実績等把握している。各自が向上心を持って働ける様、就業、環境の整備に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は管理者、職員一人ひとりのレベルに応じた外部、内部研修に参加出来るように努め、職場での学びや、質の向上に取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市の研修会や地域包括ケア体制整備検討会に積極的に参加し情報交換を行っている。勉強会を行い支援、サービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や寂しい思いが軽減できるよう声掛けを行い、困っていること、要望がないか傾聴し、安心できる環境や信頼関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を開始する段階で話しやすい雰囲気作りを心掛け、希望・要望・心配事等伺い、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人や家族の状況を確認し本人、家族の方のニーズに合ったサービスが受けられるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は単に介護しているという一方的な考えは持たず、一緒に生活している者として関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月の便り、電話等で利用者の様子を伝えている。病院受診の他、家族と過ごす時間も、共に支えていく関係が築かれている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお店・お祭り等に出かけたとき等、馴染みの人との交流が持てるように支援している。	これまでの人間関係や暮らし方については、フェイスシートや基本情報、看護情報等から把握するとともに垂水市が推進している「安心ノート」を活用して、個々の思いの把握に努めている。地域行事である「おんだんこら祭り」は馴染みの人との交流の場となっており、毎年本人、家族ともに大変楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご夫婦の方や相性等、状況に合わせた座席の配置を工夫している。不穏な雰囲気を感じない様さりげなく気分転換できる支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、できるだけ関わりが持てるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から利用者、家族からの要望や意向を伺うようにしている本人本位のケアプラン作りに努めている	利用者一人ひとりの思いや意向については、日々の会話や家族から聞き取り把握するとともに思いをうまく表現できない場合は表情や行動から汲み取るようにしている。職員は、利用者にとって何を一番楽しみにしているのかや喜んでもらうことができるかを日々考え、個々に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等これまでの経過を伺い、サービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの出来ること、出来ないこと、心身の状態把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らせるよう、担当者会議等で、家族や関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族の思いを中心に立てており、日々接する中での気づきや変化に応じて介護計画を見直し、必要であれば随時作り替え、会議にて話し合い確認している。モニタリングは短期目標期間に合わせ職員間で話し合うほか、「プラン計画実施表」で職員は毎日プランが実践できているかをチェックして、常にプランが現状に即したものとなっているか確認している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき、ケアを個人記録に記入し、ミーティング等で話し合い職員間で情報を共有し、ケアプランチェック表等で介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況によって、柔軟な支援やサービスができるよう努め、課題解決に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や市報等で地域資源を把握し、馴染みの行事に参加ができ、楽しく暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人家族の希望のかかりつけ医を受診し、気づき・申し送り等記入し情報の共有を行っている 異常時等、家族や医療機関へ連絡し受診を行っている。	入居前のかかりつけ医を受診できるよう家族と職員が協力し合って対応しているところだが、最近利用者の重度化に伴い、往診を希望する方が増えてきている。受診時の内容については、「申し送りノート」に記録した内容を基に朝夕の申し送り時に職員間で情報を共有し、家族にも丁寧に報告がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々の気づきを申し送りに記入し異常時等、事業所職員の看護師、訪問看護師に連絡し相談、助言を受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時の面会等行い利用者が安心できるように支援している。また医療機関との情報交換を行い利用者の状況の把握に努め病院関係者との連携を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化、終末期に向け入所時、本人、家族へ説明し担当者会議にて医師により重度化、終末期に対する説明を受ける等し、本人、家族の方針を伺い共有している。</p>	<p>入居時に「看取りの意向確認書」を説明し、同意、署名までもらい、入居後も本人家族の希望が変化した場合はその都度書面を取り直している。これまでに看取りの実績はないが、実績のあるグループホームの見学や勉強会、研修会に参加することで知識や技術の向上を図っており、主治医とも連携して看取りに対応できる事業所を目指して取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生時の対策を職員間で話し合い発生しないよう対策を行っている。又急変時応急手当を消防署の協力得て救命講習等行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルを整備し避難訓練を行い記録を残している</p> <p>災害時の協力体制を築く為、地域の方との交流を行っている。</p> <p>昨年実際に台風時避難し何が必要か確認できた。、</p>	<p>夜間想定を含む火災訓練を地区の公民館と合同で実施したことで地域住民や消防団員とも馴染みの関係を築くことができた。訓練に参加した地域住民の方には、避難先での見守りを願うなど役割分担したことでスムーズに訓練を終了することができた。米や飲料水、ラジオや懐中電灯、ビニールシート等の備えも十分であり、持ち運びしやすいよう玄関付近に保管している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に応じた声掛けに心掛け、プライバシーや誇りを損ねない様対応している。	人権の尊重やプライバシー確保等に関する外部研修に年3回程度参加し、ミーティング時に研修報告することで職員間の情報の共有を図っている。本人の誇りやプライバシーを損ねないよう名前で名前を呼ぶことやトイレに誘う時はさり気なく声をかけを行なうこと、ポータブルトイレは普段見えない場所に置くなど気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望が表しやすいような声掛けを行い、自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の一人ひとりが自分のペースで生活できるよう、本人の希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節に合った服装や、本人の好みに添った身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活される中で最も楽しみの一つで、準備を手伝うことで興味が増し、意欲となるよう支援している。	利用者と職員が共に調理に取り組み、同じメニューを会話を楽しみながら食べている。利用者の状況に応じて刻み食やペースト食などの特別食を提供したり、誕生日にはちらし寿司や手作りケーキ、また、行事に合わせたメニューの提供など楽しみながら食事を食べる事の大切さを考え支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの日々の状態を把握するため、水分や食事摂取量等記録に残している。献立表を作り利用者様の健康管理に活かしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のレベルに応じた口腔ケア介助を行い、衛生保持に努め毎食後の口腔ケアを支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握しトイレに行ける方は声掛けし一人で行けない方は本人に合わせた排泄パターンで介助を行うことで尿意を言われる事もあり自立に向けた支援を行っている。	日中はトイレでの排泄を基本とし、夜間はポータブルトイレの使用や尿量に合わせてパットのサイズを調整するなど身体機能に応じた排泄支援、おむつに頼らない排泄支援に努めている。また、「排泄チェック表」を活用してトイレ誘導につなげたり、支援の方法を介護計画に盛り込むことで職員全員が共通した対応が取れるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄日を記録し適度な運動、食物繊維や乳製品、オリゴ糖等取り入れ水分摂取に気配りを行い予防に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者様が入浴を楽しめるようプライバシーに気をつけ、個々に応じた声掛けを行い性格、好みに応じた支援を行っている。	入浴は一日おきとしているが、排泄時に汚れた時など状況に応じていつでも入浴は可能である。徐々に介護度が高くなってきているが、安心して気持ちよく入浴してもらえよう職員2名で介助するなど事故のないよう配慮している。入浴を拒む方には、声かけの工夫や声をかける職員を変えるなどして入浴に誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールで過ごされる時や居室で過ごされる時、利用者様のペースで気持ち良く休息出来るよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は、利用者様の名前、日付を、他職員や利用者様と一緒に声出しを行い確認し、誤薬予防に努めている。状態変化時は気を配り必要時、訪問、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しく笑顔で日々過ごせるよう家事や園芸を一緒に行いレクリエーション、散歩等 気の合う方との交流や気分転換を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	重度化が進み外出困難な方もいらっしゃるが、数時間テラスへ出たり、出来る限り外出が楽しめるよう、同系列事業所から車椅子対応車を借りて外出を行っている。	利用者の加齢とともに要介護度も高くなるため、徐々に外出が難しくなっているが、それでも個々の希望する外出先に出かけられるよう車椅子対応車を借りるなどして外出している。また、日頃からウッドデッキのあるテラスでお茶を楽しんだり、散歩や買い物に出かけるなど、外気浴を楽しむ時間をもち、気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>おやつや果物等、利用者様の好みの物を選んで頂き、自分で支払いが出来る様支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族からの電話で会話されたり、家族への電話を希望される事もあり自由に会話を楽しまれている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>天井も高く広々とした共用空間で会話を楽しまれたり、庭園の花を眺められたり、季節に合った野菜の収穫を利用者様と一緒にやっている。温度や湿度など毎日チェックし、居心地のよい空間づくりを行っている。</p>	<p>十分な採光が確保されたリビングには、作品作りや食事など、日常的に過ごしやすいようテーブルやソファが配置されている。また、床はクッション性の高い素材を使用するなど安心安全な暮らしを支援している。浴室は浴槽が中央に配置されたことで両側からの介助が十分に行える造りとなっており、脱衣場はエアコンを備えて室温等、空調管理をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールで過ごされる時や居室で過ごされる時、気の合う仲間と話せるよう、テーブルや椅子の配置を工夫している。利用者様のペースで気持ち良く休息出来るよう心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の写真を居室に置かれ、着慣れた衣類、寝具等ご家族が準備された物を使用し、気の合う仲間と話せるように、テーブルや椅子の配置を工夫している。</p>	<p>各居室にはエアコンとベッド、洗面台、タンスが備え付けられており、一部の部屋にはトイレも備え付けられている。居室には自宅から持ち込まれた馴染みの品々が飾られるなど居心地よく過ごせる環境に配慮している。日中、ポータブルトイレを使わない時は、ドアを開けた際に目に付かない位置に置くなど気を配っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安心して過ごせる様、障害物を取り除き、安全な環境づくりを工夫している。一人ひとりの「出来ること」「出来ない事を」全職員で把握し、見守り支援している</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない